

森づくりを楽しみながら 家族で考えた環境のこと

関市迫間にある「コープぎふの森・関」では、組合員・職員とその家族が自ら汗を流し、みんなで「コープぎふの森」をつくる取り組みを行っています。この森づくりを通して、森に関心を寄せることから、環境問題を考えていきます。



4月27日(土)、「コープぎふの森・関」で、間伐体験をしました。
木が密集しすぎていると地に陽が当たらず、栄養が不足してどの木もやせ細ってしまうため、大きな木を残してあとは切り倒します。見晴らしもよくなり、とても気持ちよくなりました。



山に登る途中では、案内人ふどうの森クラブの難波さんと富田さんが、木や草花の名前を教えてくださいました。イワカガミの花がちょうど見ごろできれいでした。



「コープぎふの森・関」は6.5ヘクタールの広さで、関市・中濃森林組合・岐阜県・コープぎふの4者が「生きた森林づくり協定」を結んだ森林です。
コープぎふは、維持管理費の支援と、組合員・職員による整備活動や自然観察など森林体験を実施しています。この3年間で約900人がコープぎふの森で活動しました。森林組合や地元森づくりの会の皆さんに専門的な整備活動を支援いただき、また組合員や職員が森林体験活動を続けていく成果として、少しずつ陽の射し込む森へと変化しています。
今年は、切り出された間伐材を使った「シイタケの菌打ち」、「間伐作業体験」をしました。春ならではの自然の恵み山菜の天ぷらも楽しみました。
これからも多くの方がこの里山に入り、楽しみながら森林体験をし、「生きた森づくり」をすすめていきたいと思います。



木に名札をつけてあげました。10年後はどんなに大きくなっているだろうね！



山を降りると「ふどうの森クラブ」のみなさんが、山で収穫した山菜の天ぷらと、しいたけのお味噌汁をふるまってくださいました。

頂上までの道のりは思っていたよりも急で長靴ではちょっとたいへんでしたが、関の街を見下ろすことができ、気持ちよかったです。
カエルの鳴き声に水の音、イワカガミの群落に心がうるおいました。
家の近くにも山がありますが、ほとんど立ち入ったこともなく、生えている木を切ったのは初めてでした。思っていたよりも切りやすくて楽しかったです。
揚げたての山菜の天ぷらがおしくて、どれだけでも食べられました。



子どもに間伐の体験がさせられてよかったです。頂上からの景色もきれいでした。

今後の森づくりのスケジュールは「週刊コープぎふ」でご案内します。

宮島さん

森づくり参加者に聞いた わが家のちょこっとエコ



電気をこまめに消します。資源分別をまめにやるのもエコかな？

踏込さん



水を出しっぱなしにしません

りゅうせいくん



油汚れを落とすとき、まず古くなったシャツで汚れをふき取ってから洗います。古いシャツを破るのはストレス解消!!

板野さん



着なくなった服は予め小さく切っておきます。汚れはこれでふき取ります。洗濯は2層式の洗濯機を使っています。洗剤は生協の粉石けん。お風呂の残り湯で洗います

古田さん



はけなくなったGパンをリメイクしてふで箱にします。生地も丈夫だし、予めチャックがついているから便利!

宮島さん



ゴミの減量がんばっています。ダンボールコンポストをして、庭の肥料にしています。

山本さん



できるだけ自転車で移動するようにしています。

中谷さん

暮らしの中で森を守る FSC (森林管理協議会) マーク商品

FSC 認証商品は、どこかの森で伐りだされ、その後どこで加工・流通してきたかの履歴をとることができます。このマークのついた商品を利用することで、責任ある森林管理をしている林業者を支援し、世界の森林保全貢献につながります。



これまで環境保護活動の一環として行われている「洗剤キャンペーン (コープの洗剤1個につき、1円が募金となる取り組み)」で積み立ててきた資金を、「ふどうの森クラブ」のみなさんと、「Gエコ基金」に寄付しました。